

4月5日のレッスン

復活の希望

鍵となる聖句：「キリストは死者の中からよみがえり、眠りについた人々の初穂となられた。」
コリント人への手紙第一 15:20

選読箇所：
コリント人への手紙第一 15:12-28

「初穂」があるなら、「その後の実」も必ずあるはずです。その論理は明白です。復活に関する使徒パウロの論証は力強く、私たちのキリスト教信仰の確固たる神学的基盤を成しています。

キリストは死者の中からよみがえられました——それは比喩的な意味ではありません。文字通り、死者の中からよみがえられたのです。キリストご自身がこう証言されました。「わたしは、かつて死んだが、今や生きている者である。見よ、わたしは永遠に生きている。」（黙示録1:18）。キリストが生きておられるゆえに、死後の命に対する私たちの希望は、はかないものではなく、現実的なものです。私たちがアダムにおいて皆死ぬのと同じように、キリストにおいて皆が生かされることは確実です。「アダムにおいて皆死ぬのと同じように、キリストにおいて皆が生かされるのです。」 1コリント15:22

コリント人へのパウロのメッセージは、この主題に関する彼の以前の教えと一貫していた。アテネのアレオパゴスで、彼は聖書に記録されている最も印象

的な説教の一つを行った。復活について、パウロは神が「ご自身が定めた人によって、義をもって世界を裁く日を定められた」と宣言した。「神は、その方を死者の中からよみがえらせたことによって、すべての人にこのことを保証された。」 人々は死者の復活について聞くと、ある者は嘲り、ある者は「この件については、また後で聞かせてほしい」と言った。（使徒**17:31,32**）。イエスの復活は、すべての人に永遠の命を得る機会が与えられるという確信を与えてくれる。神は「私たちの罪のために引き渡され、私たちの義認のために復活された、私たちの主イエスを、死者の中からよみがえらせた。」（ローマ人への手紙 **4:24,25**）。イエスが死からよみがえられたことは、私たちの義認の根拠です。それは死後の命に対する私たちの希望の礎なのです。

不思議なことに、コリントの教会の一部の兄弟たちは、とんでもない主張をしていた。「もしキリストが死からよみがえったと宣べ伝えられているのに、どうしてあなたがたの中には、死者の復活などないと言う者たちがいるのですか。」（コリント人への第一の手紙 **15:12**）。どうしてクリスチャンが復活の教理を否定することができたのでしょうか。彼らは無知だったのでしょうか。私たちはそうは思いません。コリントの復活否定派は、おそらくキリスト教に改宗した、高学歴のサドカイ派の人々だったのです。彼らの宗派には、復活などないという特異な考えがあったのです！

パウロは、ユダヤ人からの迫害に対して身を守る際、この事実を巧みに利用した。「パウロは、ある者はサドカイ派、ある者はパリサイ派であることを悟

ると、公会堂で叫んで言った。『兄弟たちよ、私はパリサイ人であり、パリサイ人の子です。死者の復活と希望について、私は裁かれています！』彼がこう言ったとき、パリサイ人とサドカイ人の間に論争が起こり、集会は分裂した。サドカイ人は、復活も天使も霊も存在しないと主張するが、パリサイ人はその両方を認めているからである。」使徒行伝 23:6-8

使徒行伝の記録によれば、「神の言葉は広まり、エルサレムでは弟子たちの数が大いに増え、多くの祭司たち [その大半はサドカイ派であった——使徒行伝 5:17参照]が信仰に従った。」（使徒行伝6:7）。サドカイ派の誤解に対抗するには、パウロの力強い論証が不可欠であった。キリストの贖いの業と復活の希望について、より明確な理解が与えられたことを神に感謝する。